

週刊 タバコの正体

とある駅の喫煙ルームの写真です。全面ガラス張りなので、ビジネスマン風の男性が何人もタバコを吸っている様子が丸見えです。この様子をしげしげ見つめる人はいないと思いますが、それでもこんな光景が目に入った瞬間どんな印象をもつでしょうか。



こんな限られた空間で、これだけの人が一斉にタバコを吸っているのですから、きっと煙やニオイが充満していることでしょう。タバコを吸わない人にとっては、そんな部屋には頼まれても入りたくないはずですが、喫煙者にとっては列車内も禁煙なので、この部屋に入ってタバコを吸うしかないと思うと、かわいそうで気の毒な気がします。

でも、だからと言って部屋の外で喫煙を許してしまうと関係のないその他大勢の人たちに受動喫煙の被害を及ぼしてしまうので、喫煙者にはこの状態を我慢してもらうしかありません。それにしても、タバコを吸う姿が外から丸見えであることを本人たちは気にならないのでしょうか。

君たちのように「タバコを吸うのはかっこ悪い」と思っている若者が多数派になってきている現代では、この写真のような姿はマイナスイメージにしか映らないでしょう。タバコを吸い始めると、本人の健康が害されるのはもちろんですが、印象も悪くしてしまう時代になってきました。

タバコを吸い始める必要は、ありませんよね。

産業デザイン科 奥田 恭久